

開けた場所に分布を広げた森林性鳥類の特徴

植田睦之(バードリサーチ)

東京都鳥類繁殖分布調査では、森林性鳥類の分布拡大がみられました。そこで、どのような森林性の種が開けた場所に分布を拡大しているのかを集計したところ、1970 年代 当時に森林率がやや低い場所にも生息していた種が、その後、開けた場所にも分布するようになっていることがわかりました。

現地調査により、1970 年代、1990 年代、2010 年代に調査が行なわれていたメッシュを対象に、いずれかの年代に 10 メッシュ以上の記録があった森林性の鳥類を対象に集計を行ないました。記録があったメッシュについて各年代の森林率を調べ、その平均森林率を求めました。

1970 年代の平均森林率が 90%以上の種は、1990 年代、2010 年代の分布域も森林率が高場所のままでしたが、90%未満の、森林への依存度がやや低いと考えられる種には、エナガ、ホトトギス、キビタキ、ヤマガラ、アオゲラなど、1990 年代以降により開けた場所でも記録されるようになった種がいました。

より森林率の低い場所にも分布できるように、生態が変わったり、生息適地の幅が広がったりしたのか、それとも、森林率の低い場所で樹木の生長など生息地の質が上がって生息できるようになったのかはわかりません。

逆に、年代が進むにつれて、森林率の低い場所で記録されなくなった種も 2 種いて、それはイカル、コジュケイでした。イカルは一時期、多摩地域の住宅地に点在する緑地に新たに生息するようになった種ですが、完全に定着せずに、いなくなっていました。原因はわかりませんが、いなくなった時期に逆に定着するようになったツミがイカルを捕食しているのが観察されているので、目立ちやすく、個体数の多くない開けた場所のイカルは、ツミの捕食によりいなくなってしまったのかはわかりません。コジュケイは外来種ですが、

多摩地域の緑地に広く分布していたのが、小規模な緑地からはいなくなっていました。都会化で庭の少ない住宅地になり、緑地が孤立化し、ネコや猛禽類の捕食で、小規模な緑地から徐々にいなくなっているのかもしれませんが。

各種鳥類が記録された 3 次メッシュの平均森林率

種名	1970年代	1990年代	2010年代
アカハラ	98.7	98.5	87.4
ウソ	98.5	97.1	99.4
キクイタダキ	98.2	95.6	95.7
コマドリ	98.1	98.6	99.4
ビンズイ	98.1	97.5	99.2
コガラ	98.0	97.1	97.1
コルリ	97.6	97.2	98.8
ジュウイチ	97.4	96.6	97.8
アオバト	97.3	93.5	94.5
マミジロ	96.2	97.2	87.0
ミソサザイ	96.0	95.6	97.0
ツツドリ	95.4	97.7	96.6
ゴジュウカラ	95.2	98.8	99.1
カケス	95.1	95.8	96.6
ヒガラ	95.0	96.0	94.5
ヤブサメ	94.4	92.4	91.6
センダイムシクイ	93.3	97.3	95.4
クロツグミ	92.9	97.4	91.3
ヤマドリ	92.9	81.0	89.8
オオルリ	92.6	94.5	93.1
アカゲラ	89.5	87.7	98.5
エナガ	89.4	87.9	68.0
ホトトギス	89.2	91.8	74.1
キビタキ	88.9	86.0	78.7
コゲラ	88.4	46.1	48.8
ヤマガラ	86.7	84.2	76.5
アオゲラ	85.3	71.8	66.5
ウグイス	79.0	76.9	60.2
メジロ	76.3	47.6	39.2
イカル	75.7	80.5	86.5
シジュウカラ	40.7	33.2	31.2
ハシブトガラス	36.5	22.6	24.3
ヒヨドリ	34.8	25.4	28.6
コジュケイ	30.4	36.3	52.6
キジバト	23.5	17.1	19.9
オナガ	15.7	10.2	3.2
ガビチョウ		65.3	52.4
ホンセイインコ		1.3	2.0